

令和4年度第1回鳥取県青少年問題協議会 概要

- 1 日 時 令和4年9月6日（火）午後3時30分から午後4時30分
- 2 会議形式 オンライン会議
- 3 参加議員（順不同）
吉田（裕）会長、藤田委員、吉田（祐）委員、氏橋委員、鈴木委員、福田委員、山根委員、山本委員、三島委員、松浦委員、山本委員、白川委員、田島委員

4 議事概要

（1）とっとり若者自立応援プラン検討部会委員の指名（資料1）

資料1により事務局から説明

【説明内容】

- 本県における子ども・若者育成支援に係る施策について定めた「とっとり若者自立応援プラン」の改訂等を行う場合、鳥取県青少年問題協議会に設置している「とっとり若者自立応援プラン検討部会」において検討を行うこととしている。
- 鳥取県青少年問題協議会委員について、本年7月8日に任命替えを行っており、任命替えを行った委員の内、部会に属する委員を会長より指名した。

（委員の指名）

| 所属団体 | 前任者 | | 新任者 | |
|-------------------|----------------------------|----------|----------------------------|----------|
| | | | | |
| 鳥取県中学校長会 | 鳥取市立北中学校長 | 東田 重高 氏 | 鳥取市立高草中学校長 | 吉田 祐一郎 氏 |
| 鳥取県小学校長会 | 鳥取市立富桑小学校長 | 下田 智美 氏 | 鳥取市立用瀬小学校長 | 氏橋 美智 氏 |
| 鳥取県市長会 | 鳥取市教育委員会事務局 生涯学習・スポーツ課長 | 中原 登 氏 | 鳥取市教育委員会事務局 生涯学習・スポーツ課長 | 須崎 ひとみ 氏 |
| | 公立鳥取環境大学環境学部 准教授 | 藤田 恵津子 氏 | 継続 | |
| 鳥取県私立中学 高等学校長会 | 鳥取城北高等学校長 | 石浦 外喜義 氏 | 継続 | |
| 児童養護施設 協議会 | 因伯子供学園長 | 吉田 裕治 氏 | 継続 | |
| | とっとりひきこもり生活 支援センター | 山本 満 氏 | 継続 | |
| 鳥取労働局 | 地方職業安定監察官 | 三島 祐司 氏 | 継続 | |
| | 弁護士 | 今田 慶太 氏 | 継続 | |

※新任者の任期：令和4年7月8日から令和5年7月10日

（2）とっとり若者自立応援プランの改訂（資料2～6）

資料2～6により事務局から説明

【説明内容】

- 「とっとり若者自立応援プランの計画期間（平成30年度から5年間）が令和4年度で終了するため、とっとり若者自立応援プラン検討部会で議論いただき、プランの改訂を行う。
- プランは、以下の点を踏まえて改訂を行う。

- ・令和3年度鳥取県青少年育成意識調査の結果を基礎資料とする。
- ・国の子供・若者育成支援推進大綱（令和3年4月6日決定）に盛り込まれた内容を考慮。
- ・子ども・若者を取り巻く社会状況、県民の意見（パブリックコメント等）を反映する。

○プラン改訂の背景、改訂の方向性

- ・子どもの貧困、児童虐待、いじめの問題など、子どもや家庭を取り巻く環境は依然として厳しい状況。
- ・ヤングケアラーの問題や新型コロナウイルス感染症の影響下における孤独・孤立の深まりなど、新たな社会課題が顕在化。
- ・デジタル化の進展によるSNSに起因するトラブル・性犯罪被害の深刻化や成年年齢引下げに伴う消費者被害が懸念される状況。

⇒ 子ども・若者が困難な状況から脱し、誰一人取り残されることなく、成長することができるよう、新たな社会課題に対する対応をプランに盛り込み、子ども・若者、家庭に対する取組を一層強化。

(プランに追加予定の社会課題)

- ・子ども・若者の性被害
- ・成年年齢引き下げに対応した消費者教育の推進
- ・社会的養育の充実
- ・ヤングケアラー、若者ケアラーへの支援
- ・孤独・孤立問題への対応

※これまでプランに盛り込んでいなかった「ひとり親家庭の支援」、「いじめ防止に向けた対策の強化」も併せて追加

【委員意見】

(プランの体系について)

○山本委員

- ・事務局から提起もあったが、体系で「(1) 職業生活のスタートを応援」が1番最初の項目としてくるのは少し気になった。「(4) 心身ともに健やかな成長を促す環境づくり」と入れ替えたり、1番目から下げても良いかもしれないと感じた。

(相談窓口について)

○吉田(祐)委員

- ・若者の相談窓口には、どういったものがあるのか。
(事務局) ⇒ いじめであれば「いじめ・不登校総合対策センター、ひきこもりであれば、「とっとりひきこもり生活支援センター」、非行等であれば「少年サポートセンター」等、支援の内容ごとに分かれている。
- ・どこに相談したらよいか分からない子どもも多い。子どもがネットで検索して、時間をかけ相談窓口を探すもの大変。窓口を一本化し、そこに連絡すれば窓口を紹介してもらえとか、SNSを利用した相談など、子どもが入りやすい窓口があると、救われる子どももいる。
(事務局) ⇒ ヤングケアラーにおいてSNS・ライン相談の取組を行っている。このような取組を横展開していきたい。市町村においても重層的な相談体制の構築を進めており、相談窓口の一本化するなど、色々な支援を行っている。個人だけでなく、家族への支援にも繋げている。

(施策内容について)

○吉田(裕)会長

- ・プランの内容は多岐に渡る。アドボカシーなど新しい概念も出てきている。アドボカシーを進めるには、アドボケイトの養成等時間がかかる。効率だけを求める施策ではなく、子どもたちに寄り添う施策に力を入れてほしい。

(3) 今後の予定

- プランの改訂について、今後の具体的内容は「とっとり若者自立応援プラン検討部会」で協議していく。部会の開催日程は、別途、調整させていただく。
- 検討状況は、部会以外の委員の皆様にも情報提供させていただく。